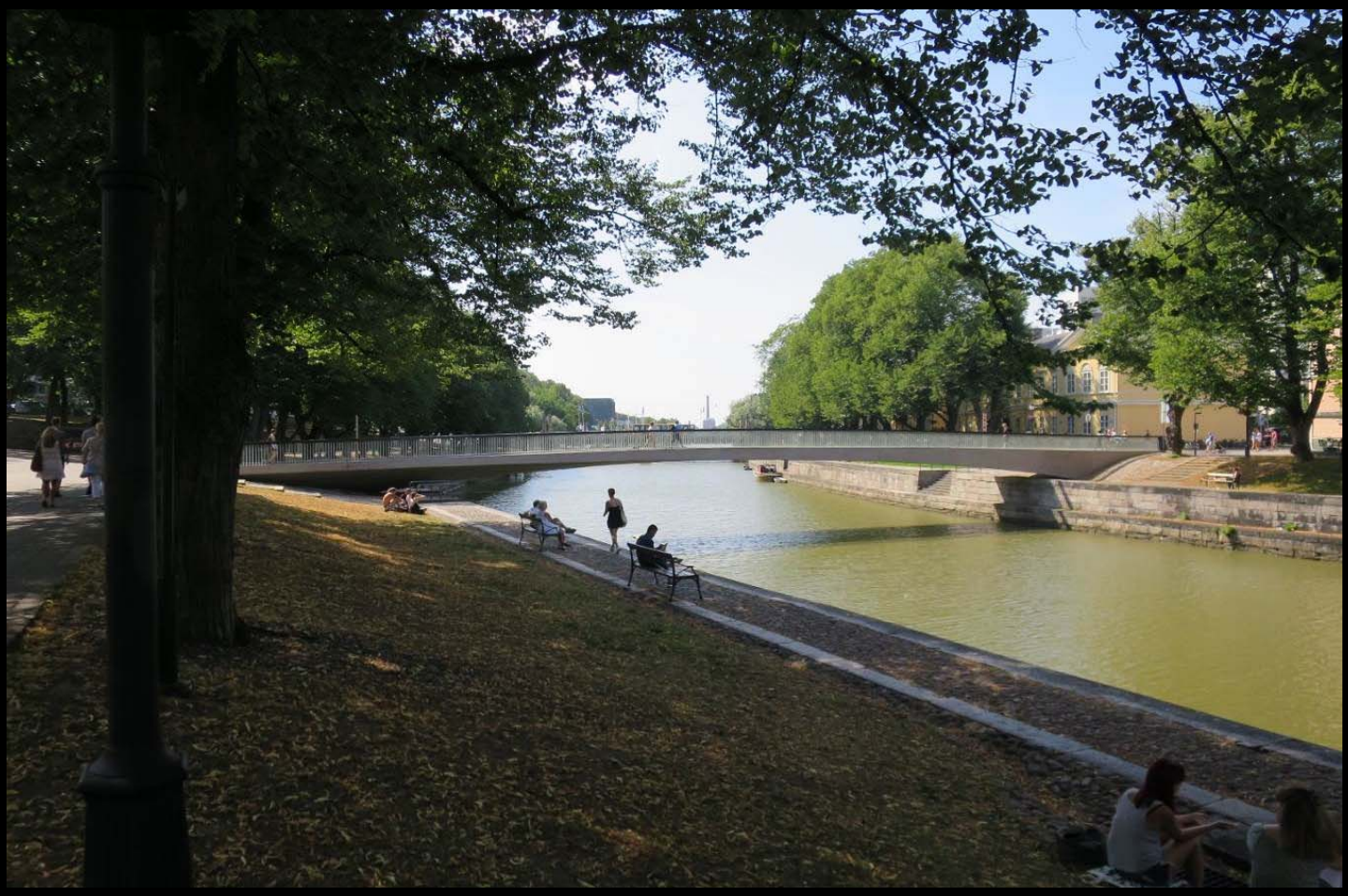
涼しげな水辺遊歩：
インフラが市民の憩いの場をつくり それが永くまちの誇りとなる



2018年8月（フィンランド・トゥルク・アウラ川）

◆川沿いに"文化"が集積

フィンランドの西のはしにあるトゥルクは、帝政ロシアにより1812年に首都をヘルシンキに移されるまでは、スウェーデンの威勢によりフィンランドの首都となっていました。アウラ川の周囲には、大聖堂（福音教会）、図書館、大学、博物館などが集積しています。

◆文化をつなげる美しい橋

デザイン性にすぐれ、やわらかな曲線を活かしたスレンダーな人道橋は、見る人に心地よさを感じさせてくれます。高欄の縦さんには透明感あるガラス材（or強化プラスチック）が使われています。

岡村幸二（JRRN会員）